

1. 講義の進め方

二時限続きで、前半は講義、後半は講義をふまえて講師を含む議論。下線トピックの予習をして臨んでほしい。

プレ1：4/9

佐藤慎司、東京大学教授、社会基盤学専攻「沿岸部の千年まちづくり -海岸の地形特性と津波」

プレ2：4/12「事前復興を契機とした地域の再編」

後藤春彦、早稲田大学教授、建築（地域都市計画）「災害は忘れられたところにやってくる」

菊池雅彦、復興庁参事官「東日本大震災における復興の取り組み -居住地・住宅再建の選択の観点から復興計画、事前復興を考える」

4/16 第1回	復興デザイン学の論点：空間計画の関心領域から
4/23	休講
4/30	昭和の日
5/7 第2回	廣井悠、東京大学准教授、都市工学専攻、 <u>防災計画、避難行動、巨大災害対応</u>
5/14 第3回	大須賀芳雄、奈良県庁、 <u>十津川村の復興、土砂災害と高齢化人口減少対応の両立</u>
5/21	休講
5/28 第4回	佐藤慶一、専修大学准教授、 <u>人口移動トレンド分析、仮住まいシミュレーション</u>
6/4	休講
6/11	休講
6/18 第5回	西村幸夫、神戸芸術工科大学教授、都市デザイン、保全計画、 <u>空間と地域の読解</u>
6/25 第6回	尾松亮、公益財団法人自然エネルギー財団、 <u>チェルノブイリにおける原発対応</u>
7/2	休講
7/9	休講：日中に、復興デザインスタジオの最終講評会があります、参加聴講大歓迎
7/12 (木)	<u>レポート提出</u>
7/16	海の日
7/23 第7回	最終回：全員発表、議論

2. 課題：レポート提出

(1) ご講義の中から2本を選んで（第1回と第7回を除く）、それらについて、要旨、学び（得た新たな知見）、課題（まだ未解決だと考えること、講義の中で言及されたことでなくて良い。）を整理してください。

(2) 上記の2つを含む2つ以上の側面を同時に考慮して復興に臨むとして、それらのもたらす矛盾を考慮し、実現する際の難しさについて、考察せよ。

(3) 上記の難しさの解決につながる対策として、事前になしうると考えられることについて、提案してください。その際、「防災訓練」のような災害に特化したものではなく、できるだけ日常生活の中でなし得る対策を考えてみてください。また、我々の社会が、縮退の局面にあることも前提としてください。

（注）なお、上記のような課題を前提に、講義中に、質問や議論をすることを推奨します。その質疑については、レポートに記述してください。評価の対象とします。逆に講義後に個別に聞きに行くのは、特異性の高い質問以外は控えましょう。

7月12日（木）23:59までにメール送付、窪田+井本佐保里 Saori Imoto <imoto@arch.t.u-tokyo.ac.jp>